

楊雯淇

1. 始めに

本研究の目的は関連性理論を背景にして提案された手続きの意味(procedural meaning)を用いて、関連性理論的アプローチではこれまで分析されていなかった中国語談話標識「怎么说」を分析することである¹。手続きの意味を分析に応用することによって、従来の「怎么说」の談話分析的研究に認知的な理論的基礎を与えるのと同時に、「怎么说」の意味・機能を統一的に説明することができることを示す。

2. 先行研究と問題の所在

2.1 談話標識の「怎么说」の先行研究

刘(2013)は、中国語の「怎么说」は、(1)が示しているように、文から独立した、「文の真理条件的意味に影響を与えない」談話標識としての意味・用法があることを指摘している。

(1) 社会治安吧, 怎么说, 我总觉得比较乱。

(社会的治安はね、怎么说、混乱していると思う。)

また、刘(2013)、曹(2014)によると、「怎么说」には終助詞の「啊」や「呢」が付加された「怎么说啊」「怎么说呢」などの変異形があり、日常会話に頻繁に出現していると指摘している²。

刘(2013)は談話標識の「怎么说」について、出現位置を分類して、それぞれの具体的な機能を述べている。発話の冒頭に使用される「怎么说」は、応答の始まりを示し、後続する情報の性質(複雑であるかまたは否定的か、微妙(センシティブ)である)を示唆することができる³。例えば、(2)の例では、医者の質問に対して、杜さんは簡単にお酒か命かを選べないという、二者択一ではない複雑な答えを出している。(3)の例では、Bの答えは相手が期待している答えではなく、相手にとっては否定的な情報の伝達である。(4)の例では、Bの答えは個人的で、言いにくい面があり、微妙またはセンシティブな内容を含んでいる⁴。これらの例において、「怎么说」が使用されることで、応答の始まりを示すのと同時に、後続する情報の性質を前もって示唆することで、話し手の責任を軽減する、または聞き手にもたらす不快感を軽減する対人的機能を持つとされている。

(2) 医生：“你到底要酒还是要命啊”

老杜：“怎么说呢？我都想要，要酒是为了度命，要命是为了喝酒”

(医者：いったいお酒と命、どちらが大事なわけ？)

(杜さん：怎么说呢、両方大事です、お酒は生きて行くためで、命はお酒を飲むためです。)

(3) A:你真的不顾及我们朋友的情面吗？

B:怎么说呢，我不想失去我们的友情，但我更不想违背做人的原则。

(A:本当に私たちの関係を考えてくれないの？)

(B:怎么说呢、私たちの友情を失いたくないけど、人の道に背くわけにはいかない。)

¹ 談話標識の「怎么说」は、「どのように言うか」という質問を表す表現から文法化によって生じたものと考えられる(郑蒲(2009)、刘(2013)、曹(2014)も参照されたい)。

² 本研究は刘(2013)に従い、「怎么说呢」などの変異形と「怎么说」を区別しないで議論を行う。基本形と変異形の違いを分析するためには、終助詞「呢」「啊」の意味・機能を詳しく検討する必要があり、今後の課題とする。

³ 刘(2013)では、3つの情報の性質は「复杂性」「负面性」「敏感性」と呼ばれている。

⁴ 例文(1)–(4)は刘(2013)より修正後引用。刘(2013)で挙げられたのは自然会話であり、文法の間違いや語の重複などが存在する。本研究ではデータを整理し、中心となる部分だけを引用している。

(4) A:你们现在关系到底进展到什么程度了?

B:怎么说呢,我们同居了。

(A:あなたたちの関係は今いったいどうなっているの?)

(B:怎么说呢、もう同棲してる。)

次に、刘(2013)は発話の中に出現する「怎么说」は、話題を先に進める機能や陳述を先に延ばす機能を持つことを指摘した⁵。例(5)は、「怎么说」の前に社会的治安という話題を提起し、後にその話題について陳述している。「話題—陳述」という形で、話題を先に進めることが実現されている。(6)では、話し手は話している途中一時的に適切な表現が見つからず、「怎么说」を使用することで、発話権を維持しながら、陳述を先延ばししている。

(5) 社会治安吧,怎么说,我总觉得比较乱。

(社会的治安はね、怎么说、混乱していると思う。)

(6) 我们家呀,虽然我是在学校里工作这么多年,可是我的孩子都是“文化大革命”当中的这个,怎么说呢,被耽误的一代。

(うちはね、私が学校で長年働いているが、でもうちの子供たち皆は「文化大革命」のなかで、この、怎么说呢、遅らせられた一代だ。)

曹(2014)も似たような観点を述べ、「怎么说」が持つ、答えを提示する機能、微妙な話題を回避する機能、反対意見や否定的評価を婉曲に伝達する機能、発話の継続を維持する機能を挙げている。

2.2 問題の所在

先行研究は「怎么说」が出現する文脈的条件やその使用がもたらす効果の一部を明らかにしているが、次のような3つの問題点がある。

まず、第一に、先行研究は、「怎么说」の後続節に焦点を当てて分析していて、「怎么说」と先行する発話との関係については十分に説明していない⁶。実際には、例えば、(5)は、(7)が示しているように、先行する発話または先行する文脈を削除すると、不自然な発話になる。しかし、先行研究の分析はなぜ(7)のような発話が不自然なのかをうまく説明できない。そのため、「怎么说」を適切に分析するためには先行節との関係も考慮する必要がある。

(7) ?怎么说,社会治安吧,我总觉得比较乱。

(怎么说,社会治安はね、混乱していると思う。)

第二に、情報の性質の分類が主観的であり、かつ狭く限定されすぎているという経験的問題が挙げられる。例えば、(3)は、刘(2013)においては、情報の否定性を示す例として挙げられている。しかし、人間関係は重要だが、人の道に従うことはもっと重要だという比較判断は複雑な心理活動であり、情報の複雑性を示す例としても考えられる。また、日常会

⁵ 刘(2013)では、「话题推进」と「陈述延迟」とされている。

⁶ 発話冒頭に使用される「怎么说」は、応答の始まりを示しているという刘(2013)の指摘は、先行する質問が存在するということを含意し、ある程度先行する発話を考慮している。しかし、先行する発話は質問ではない場合にも「怎么说」の使用が可能である。下記の例に示しているように、一人の話し手によってある話題が確立されると、次の話し手は「怎么说」を使用して発話を始めることができる。

记者: 同样的问题,她已经到我们这里抱怨过三次了。说有人堵了她的车道,她的车子不好开出。

张师傅: 怎么说呢,其实这也不算问题。

(記者: 同じ問題について、彼女はもう三回ほどクレームを言いに来ました。誰かが彼女の車が出られないように車を止め、車を出しにくいと言っていました。張さん: 怎么说呢、実はこれは問題とは言えないと思います。)(曹(2014)より修正後引用)

4節で、本研究の分析では、出現位置による分類を行なわなくても、発話の冒頭及び発話の中に使用される「怎么说」を同様に説明することができることを示す。

話において、確かに「怎么説」に後続する情報は複雑か、否定的か、微妙（センシティブ）である場合が多いが、そうでもない中立的な情報も続けられる。例えば、(8) は、後続する情報が中立な場合でも、「怎么説」が出現している例である。

(8) (大学で開かれたインタビュー)

主持人：那最后您还有什么想对在场的年轻朋友们说的话吗。

王老师：怎么説，我还是觉得年轻人要多出去走，要见世面。

(司会：では、最後にこの場にいる若者たちに何か伝えたいことがありますか。)

(王先生：怎么説、やっぱり若い人たちはもっと外に出たほうが良いと思います、見聞を広めるべきです。)

第三に、先行研究はどちらかというと、話し手の立場から「怎么説」の出現位置を分類し、違った位置にある「怎么説」はそれぞれ違った機能を持つと説明していた。しかし、「怎么説」の機能は必ずしも出現位置によって制限されるわけではなく、1つの使用が同時に複数の機能を持つ可能性があると考えられる。例えば、(5) の例は、刘 (2013) では、発話の中に出てきた「怎么説」であり、話題を先に進める機能を持つと分析されている。しかし、実際には、この「怎么説」は、後続する情報の否定性を示唆する機能と発話権を保ちながら陳述を先に延ばす機能も同時に持っていると考えられる。しかし、先行研究はこの点について説明していない。

本研究では、聞き手の発話解釈の観点から、「怎么説」の手続き的意味の分析を提案することで、先行研究の問題点を解決すると同時に、「怎么説」の意味・機能の統一的な説明を試みる。

3. 理論的枠組み

3.1 関連性理論

Sperber & Wilson (1986) が提唱した関連性理論は、人間の認知システムは関連性の最大化に向けて働くという前提に立っている。この枠組みでは、発話の言語的意味は、話し手の意図した解釈を得るための手掛かりであり、聞き手はその手掛かりをもとに、推論を用いて解釈を構築し、認知効果を引き出すのである。さらに、関連性の度合は認知効果とそれを引き出すための処理労力によって決まり、同じ条件のもとでは認知効果が大きくて、処理労力が小さいほど関連性が高くなると考えられている。

3.2 手続き的意味

この関連性理論の枠組みで、Blakemore (1987) は、談話標識の意味は、聞き手の発話解釈における推論的側面に何らかの制約を課す「手続き的意味」であり、その制約は一般に聞き手の処理労力を減らして、関連性を高めることに貢献するものだと主張している。(9) の例を見てみよう。

(9) A: Tom can open Bill's safe.

B: He knows the combination.

(10) B: So he knows the combination.

(11) B: After all he knows the combination.

(Blakemore 1987, 2000)

(9) B の発話には少なくとも2つの解釈がある。一つは、B の発話が表示している命題「Bill は番号の組合せを知っている」は A の「Tom は Bill の金庫を開けられる」の前提であるという解釈である。もう一つは、逆に、B の「Bill は番号の組合せを知っている」は A の「Tom は Bill の金庫を開けられる」の結論であるという解釈である。しかし、(10) と (11) に見られるように so や after all のような談話標識を入れると、B の発話の解釈が A の発話の結論か前提のどちらか1つに制約されるようになり、聞き手の処理労力が軽減される。

Blakemore (1987) によって提案された当初は、手続きの意味は、発話の推意 (implicature) の制約に貢献するものと考えられていたが、その後の手続きの意味の研究の発展に伴って、3.3 節で説明するように手続きの意味が制約する対象は表意 (explicature) にまで拡張された。この拡張に基づいて、4 節で、談話標識「怎么说」は高次表意の構築に制約をかける手続きの意味を持つという分析を提案する。

3.3 表意

上述の例で示されたように、純粹に推論によって構築された解釈は推意 (implicature) と呼ばれている。関連性理論では、発話によって伝達される想定として、推意の他に、発話の論理形式から復元されたものである表意 (explicature) もあり、その構築にも推論が関与していると考えられている。表意は、さらに基礎表意 (basic-level explicature) と高次表意 (higher-level explicature) に分かれている。

(12) Peter: Will you pay back the money by Tuesday?

Mary: I will pay it back by then.

(13) Mary will pay back the money by Tuesday.

(14) a. Mary is promising to pay back the money by Tuesday.

b. Mary believes she will pay back the money by Tuesday.

...

(Wilson & Sperber 2004)

例文 (12) の Mary の発話から得られた、(13) Mary will pay back the money by Tuesday は基礎表意で、また、(14a,b) の Mary is promising または Mary believes のような発話行為や信念などを表す表意は、高次表意である。一つの発話は複数の表意を持つことができ、聞き手は発話の文脈に基づいて、関連性のある必要なだけの表意を構築するのである。その構築に推論が関わっているため、現在では、手続きの意味は表意と推意の両方の構築に制約をかけることができるという考えに一般化されている。

4. 「怎么说」の手続きの意味と派生的機能

本研究では「怎么说」は高次表意の構築に制約をかける手続きの意味を持つという分析を提案する。すなわち、「怎么说」は聞き手の高次表意の構築に次のような2つの制約をかけている。すなわち、①話し手は「怎么说」に先行する話題についての思考が不十分であり、まだ斟酌していると解釈せよ、②話し手は「怎么说」に後続する発話において暫定的にその時点でまとめられた考えを述べていると解釈せよという2つの制約である。(2)の例 (ここでは (15) として再掲) を見てみよう。

(15) 医生：“你到底要酒还是要命啊”

老杜：“怎么说呢，我都想要，要酒是为了度命，要命是为了喝酒”

(医者：いったいお酒と命、どっちが大事なわけ?)

(杜さん：怎么说呢、両方大事です、お酒は生きて行くためで、命はお酒を飲むためです。)

この例において、お酒と命の大事さという話題が医者 の質問によって提起されている。手続きの意味を用いた分析では、「怎么说」の使用によって、医者は、杜さんはこの話題について斟酌していて、暫定的に「両方大事です、お酒は生きて行くためで、命はお酒を飲むためです」という答えを出しているという高次表意を構築すると説明できる。もし、(16) が示しているように、「怎么说」がなかったら、上述の解釈と違った別な解釈が聞き手 (医者) によって構築されるかもしれない。

(16) 我都想要，要酒是为了度命，要命是为了喝酒。

(両方大事です、お酒は生きて行くためで、命はお酒を飲むためです。)

(17) a. 話し手は迷わずに(16)が表す命題を確信している/b. 強く主張している/c. 医者に反発している/...

(16)の発話に対して、(17)に示したように、話し手はお酒と命の大事さについて、両方が大事であることとその理由を確信しているか、強く主張しているか、医者に反発しているという解釈のどれかを聞き手である医者が構築する可能性がある。その解釈の結果として、例えば、医者 の 面 目 が つ ぶ れ る こ と に な る か も し れ な い。しかし、「怎么说」が加わると、(17)が示したのではなく、先行する話題について斟酌している、及び暫定的に後続する情報を述べているという2つの点で高次表意の構築が制約される。聞き手はさらに、斟酌する理由について推論を展開することができる。例えば、二者択一ではない複雑な答えが続くかもしれないと予測し、前もって心の準備ができる。また、暫定的に答えを述べているため、患者の強い主張や医者に対する反発という解釈が成立しなくなる。そこで、聞き手は面目をつぶされたように思わなくなり、聞き手の配慮という対人的機能が派生的に得られると考えることができる。

上述の例は、先行研究で指摘されていた、発話の冒頭に使用される「怎么说」の例である。次に、発話の中に出現する「怎么说」の例を見てみよう(1)を(18)として再掲)。

(18) 社会治安吧，怎么说，我总觉得比较乱。

(社会的治安はね、怎么说、混乱していると思う。)

この例において、「怎么说」があるので、話し手は、「怎么说」に「先行する話題、即ち社会的治安についてまだ斟酌していて、後続節において暫定的に『混乱していると思う』と述べている」という解釈を伴った高次表意を聞き手は構築できる。もし、(19)に示したように、「怎么说」がなかったら、聞き手は別な方向に解釈をするかもしれない。

(19) 社会治安吧，我总觉得比较乱。

(社会的治安はね、混乱していると思う。)

(20) a. 話し手は(19)が表す命題を述べている/b. 心から信じている/c. 強く主張している/...

(20)に示したように、(19)は、話し手は社会的治安が悪いことを述べているか、信じているか、またはよく考えた上で主張しているという高次表意のどれかを意図しているという解釈を聞き手が構築する可能性がある。その解釈の結果として、例えば、話題になっている国への海外旅行を計画している聞き手が、旅行先の治安が悪いと知り、がっかりしてしまうかもしれない。しかし、「怎么说」が加わると、(20)が示したのではなく、先行する話題について斟酌している、及び暫定的に後続する情報を述べるという2つの点で高次表意の構築が制約される。さらに、斟酌する理由について推論を展開でき、後続する情報の性質を予測し始める。例えば、聞き手は、否定的な情報が続くかもしれないという推論をして、心の準備がある程度できるかもしれない。したがって、発話の(聞き手への)インパクトや(聞き手にもたらす)不快感がその分だけ軽減される。すなわち聞き手配慮の機能が派生的に得られると考えられる。また、後続する情報は暫定的な考えであるため、どれほど真剣に受け止めるかは聞き手自身が責任をもって決め、その分だけ話し手の責任が軽減されることになる。つまり話し手の責任軽減の機能が得られると考えられる。

上述の機能が働くのと同時に、(18)における「怎么说」の使用は、発話権を維持し陳述を先延ばしするという機能も持つと考えられる。例えば、(21)のように、「怎么说」がなく、代わりに、頭を左右に振りながらため息をついている、或は沈黙している場合を考えてみよう。

(21) 社会治安吧... (一边摇头一边叹气 / 沉默)

(社会治安はね... (頭を左右に振りながらため息/沈黙している))

(22) a. 話し手は発話を中止した/b. 話し手は社会的治安にがっかりして、気持ちを言語化することを諦めた/...

(21)の場合では、(22)が示すように、発話行為を中止した、または言語表現化を諦めたというような解釈が聞き手に構築されやすい。そのため、聞き手は発話のターンを取る可能性が高くなる。しかし、「怎么说」が加わると、先行する話題について斟酌していて、暫定的に考えを述べているというように聞き手は解釈を行う。つまり、現時点においてうまく表現できないかもしれないがまだ発話行為を続けるつもりであるというように推論が方向づけられるため、聞き手は発話を待つ可能性が高い。その結果、話し手は発話権を維持することができるようになるのである。

上述のように、本研究の分析では、情報の性質の示唆や、話し手の責任軽減、聞き手配慮、ないし話題の推進、発話権の維持などの「怎么说」の機能は、「怎么说」自体にコード化されているのではなく、聞き手が発話解釈の過程で、話し手の意図した高次表意を構築したことによって「怎么说」の手続きの意味から派生的に得られた二次的な機能として統一的に説明することが可能になる。また、一つの「怎么说」の使用が複数の機能を並列的に持つことも自然に説明できる。

5. まとめと今後の課題

本研究では、「怎么说」の手続きの意味の分析を提案した。先行研究では十分に重視されていなかった先行発話との関係に関しても考慮し、「怎么说」の手続きの意味は高次表意の構築を制約する2つの部分で構成されているという分析を提案した。すなわち、①先行する話題について斟酌していると解釈せよ、及び②暫定的に後続する情報を述べていると解釈せよという2つの部分である。「怎么说」によって、発話は、この2つの点で高次表意の構築が制約され、聞き手は話し手の意図した解釈に迫り着けるのである。

この分析には次の3つの利点がある。まず、第一に、先行研究では、発話の冒頭に出現した「怎么说」と発話の中に出現した「怎么说」とを違った機能を持つ標識として分析していた。しかし、本研究の分析では、(15)(18)で示したように、文中の位置に関わりなく、同じ説明が可能になる。第二に、「怎么说」に続く情報の性質の示唆という機能は、推論によって派生される機能として考えることで、先行研究に見られた、情報の性質の分類の曖昧さ、性質の見落としなどの経験的問題がなくなる。第三に、聞き手の発話解釈の観点から、「怎么说」は発話解釈の一環として高次表意の構築へ制約をかける手続きの意味を持つと分析することによって、後続する情報の性質の示唆、話し手の発話権の保持、話題の推進、または聞き手配慮や、話し手の責任軽減などの機能が、「怎么说」の手続きの意味から聞き手の推論を経て派生された二次的な機能として統一的に説明でき、「怎么说」の使用が同時に複数の機能を持つことについても説明ができるようになる。

本研究では、基本形の「怎么说」に文末助詞がついている形式、つまり「怎么说呢」「怎么说啊」などについては論じなかった。文末助詞もそれぞれ独自の手続きの意味をコード化していると考えられるため、これらの形式については、「怎么说」と文末助詞の意味の組み合わせによってどのような新しい解釈（推論）が生じるかを分析する必要があると考えたためである。この問題については今後の課題とする。

参考文献：

- 曹秀玲 (2014) 从问到非问：话语标记的一个来源——以“怎么说呢”为例，山西大学学报（哲学社会科学版）37（4），pp60-67。
- 刘丽艳 (2013) 话语斟酌标记“怎么说”及其功能研究，宁夏大学学报（人文社会科学版）35（5），pp41-47。
- 郑绮&蒲霏 (2009) “怎么说”的语法化历程，现代语文（语言研究版），2009年第10期，pp36-38。
- 内田聖二 (2011) 『語用論の射程：語から談話・テキストへ』研究社。
- 東森勲・吉村あき子 (2003) 『関連性理論の新展開：認知とコミュニケーション』研究社。
- Blakemore,D.(1987)*Semantic constraints on relevance*. Oxford:Blackwell.
- Blakemore,D.(2000)Indicators and procedures: nevertheless and but. *Journal of linguistics* 36 (3), pp.463-486.
- Wilson,D & D.Sperber.(1986)*Relevance: Communication and Cognition*. Oxford:Blackwell.
- Wilson,D & D.Sperber.(1993)Linguistic form and relevance, *Lingua* 90, pp.1-25.
- Wilson, D & D.Sperber.(2004)Relevance Theory. In: Horn, Laurence R & Ward, Gregory (eds.) *The Handbook of Pragmatics*.pp.249-290. Blackwell.